

F2国際セッション
研究の国際展開と学内環境
－大学のグローバル化の中のURAの役割－

RA協議会第3回年次大会
2017年8月30日
徳島 あわぎんホール

本セッションについて

大学は研究の国際展開を目指している そしてURAはその推進に関わっている

大学の 目指す方向

- 大学は研究の国際化を目指してきた
 - 国際共同研究の促進
 - 留学生等の獲得（SGU）
 - 外国人教員の獲得
 - 積極的な協定の締結とその活用
 - 社会的課題の研究推進 等

大学の状態

- 対応部署の設置の出遅れ、スキルを持つ人材の不足
- これまで以上に注力する必要性
- 教員や外国人研究者等の負担増加

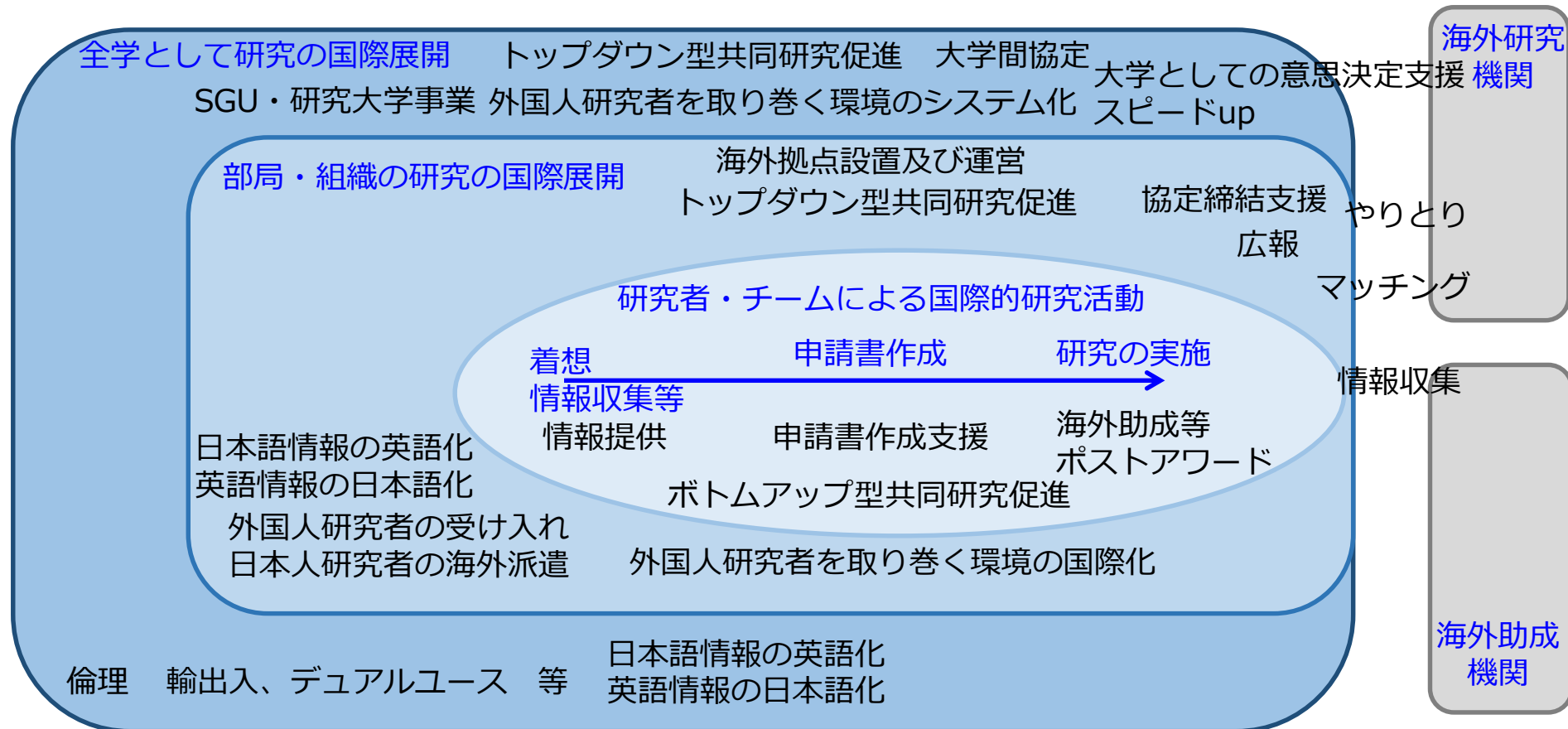
その他

- 国際系補助金も多い
- 大学がどのような状態、あるいは何を目指しているか見えにくいこともある

URAの関わり

- URAによる支援も求められてきた

様々な階層における研究の国際展開と URAのマルチな仕事



国際系のURA業務の特徴

- 研究を軸足にした国際業務
- あらゆる階層における支援を求められ実施している
- 幅広いマルチな実務（しかけ、実務対応、システム作り）に関わっている
- 研究者・事務・URA等が連携して業務が成り立つことが多い
- 本来URA業務でないものも請け負っていることもあるかもしれない
- どの階層で何を目指してどこまで求められているのか、わからないこともある

このセッションで議論したいこと

- 発生している様々な業務の方向性について。大学における研究の国際化はどこへ進んでいるのか。
- 私たちのような研究を柱とした国際系業務を行うURAは、何に寄与できるのか、誰にどのような機能を提供できるのか
- （少し先の）未来の国際系URA像は？

→ 答えはでないかもしれないが、少し先を見通しながら、私たちに何ができるかを考え続けていくことは大事なのではないか

進行役のこのセッションへの期待

前職

グローバル化の進むスイスの大学にて、大型共同研究プロジェクトマネージャ（EU競争的資金）、国際部スタッフといったのURA類似職を担う。国際化でイメージするのは、前職の大学。

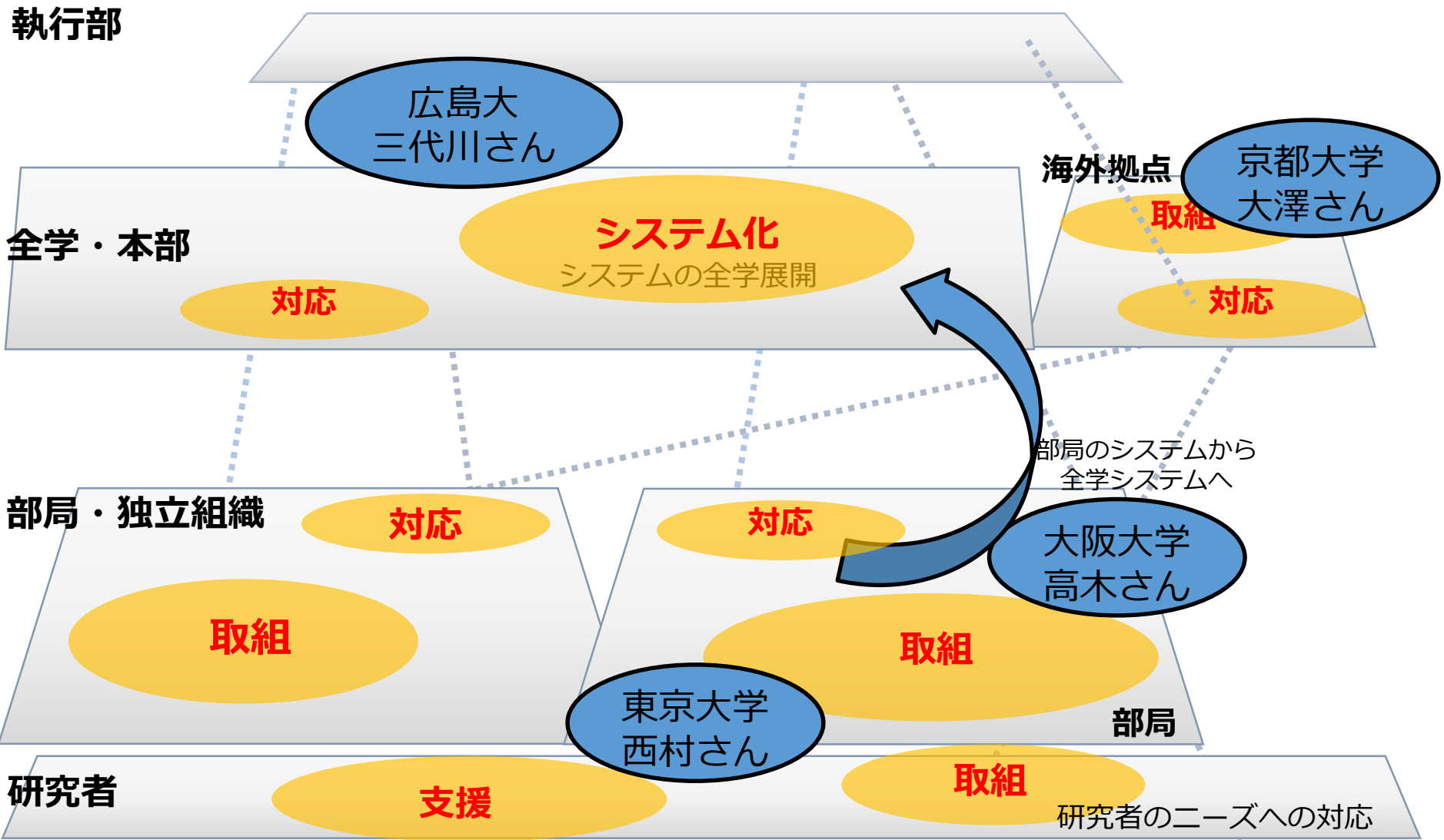
現職の国際関連業務

マルチな業務

- 外国人研究者の研究環境基盤の整備、システム化（科研費等の支援、情報提供）
- 国際共同研究を目的とした競争的資金の申請支援
- 海外の助成機関プログラムへの申請支援や、学内対応支援、システム化
- 全学の国際展開への助言 等

一番感じている危機感は、国際共同の促進やパートナー連携が進むなかで、学内の対応が後手になっていること。国際共同促進と学内対応のスピードと対応スキルのバランスがとれていないと感じていて、どのように私たちURAが寄与できるのかを模索している。URAが大学の研究の国際化促進のために考えていけること、寄与できることを広い視点で整理していきたい。

4人のパネリストの位置と視点



4 人のパネリストの位置と視点

執行部

広島大

パネリストから以下を中心にお話ししていただきます

全学・本部

システム化

取組

- 実施している研究の国際展開を目指した業務
- 業務上の課題
- URAのできること、求められる役割は何か
- （例えば、5～10年後）国際展開に関するURAの将来像、見通し

部局

対応

海外拠点

取組

部局

東京大学
西村さん

研究者

支援

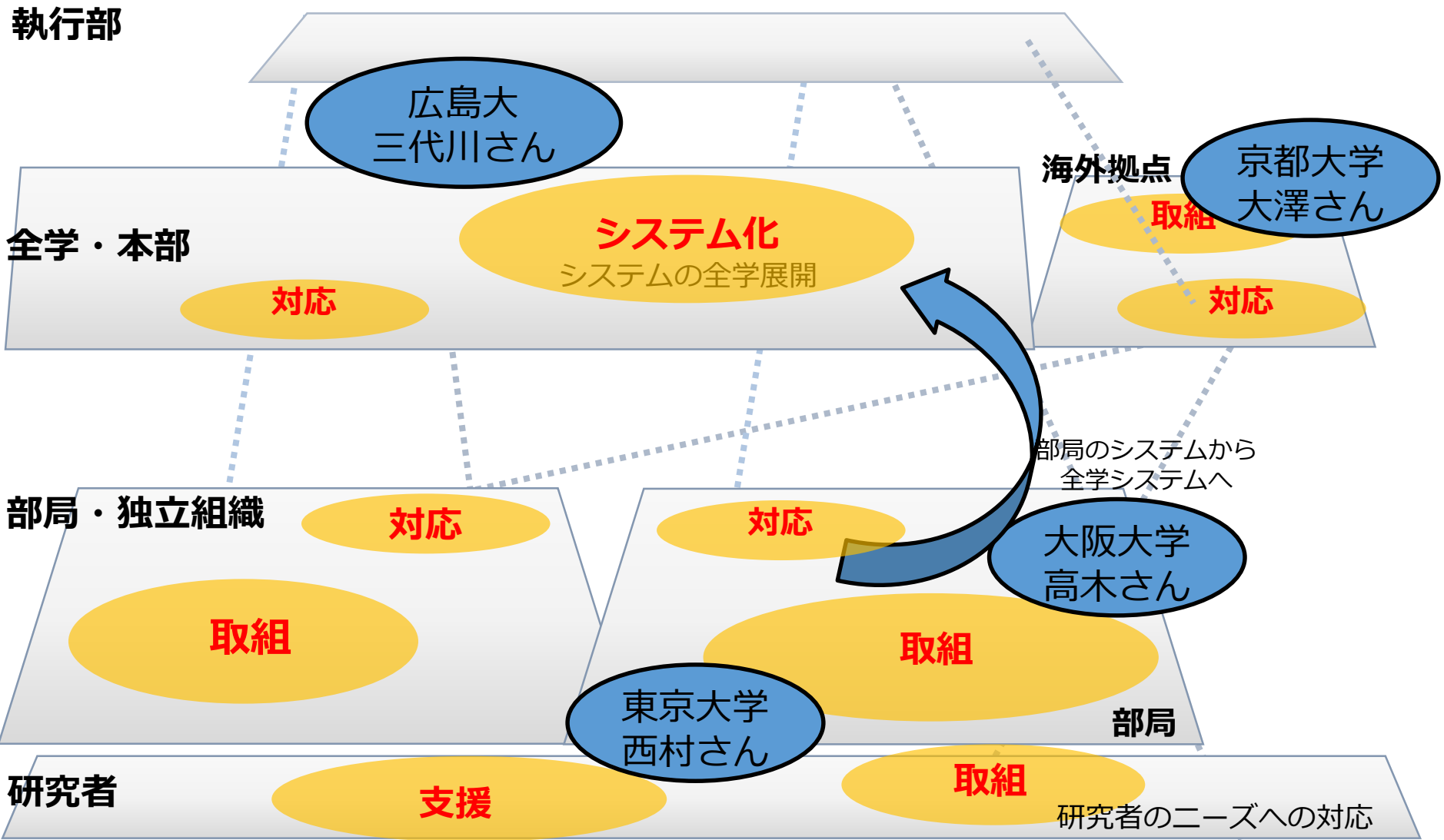
取組

研究者のニーズへの対応

(URAはすべての階層にいるイメージ)

パネリスト資料

4人のパネリストの位置と視点

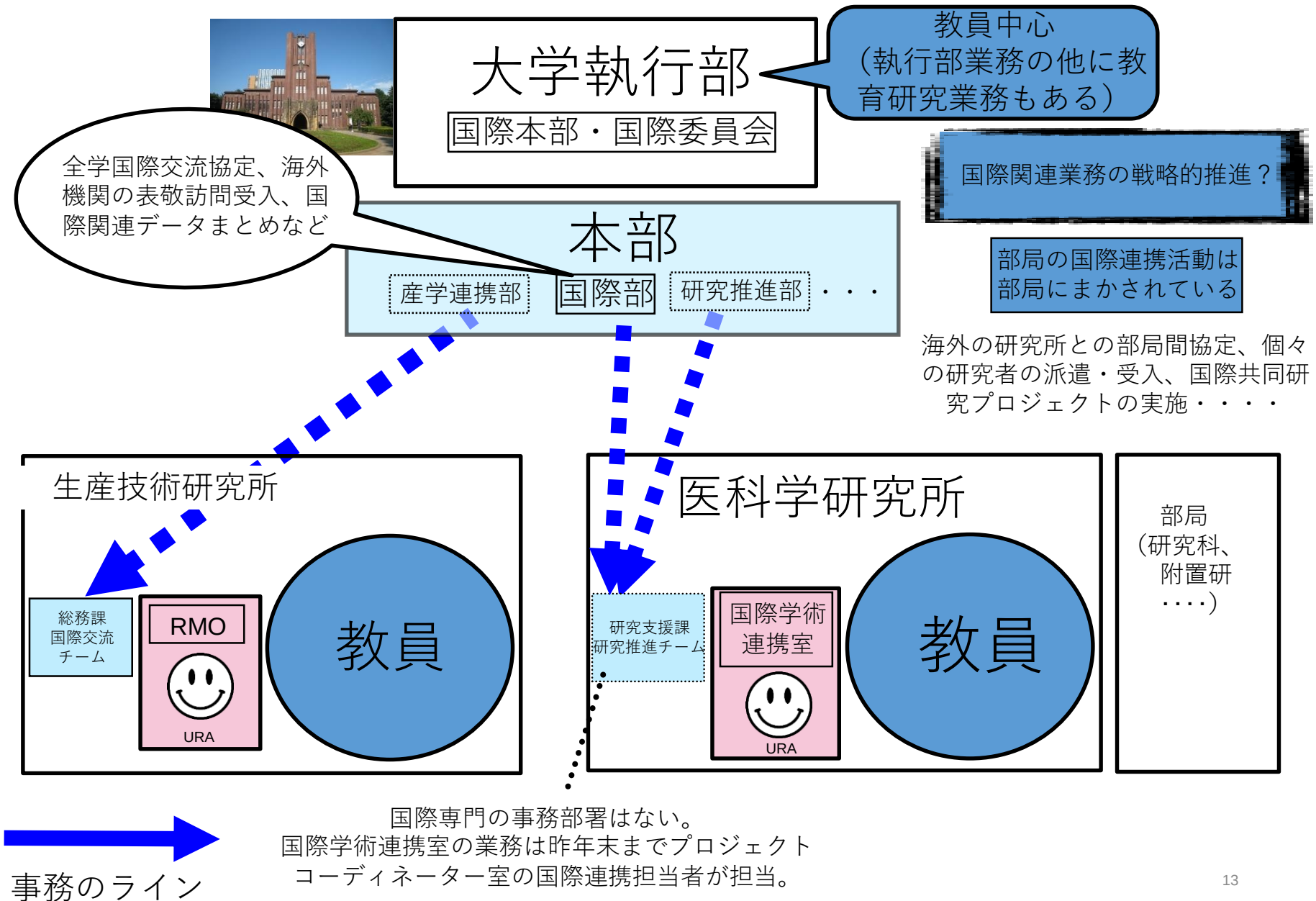


リサーチ・アドミニストレーター協議会第3回年次大会
2017年8月30日（水）@徳島

東京大学部局**URA**の業務

東京大学 医科学研究所 国際学術連携室
URA（学術支援専門職員） 西村 薫

東京大学の研究での国際業務の仕組み



部局ごとに国際戦略の立案は任されている



部局による違いが大きい

例えば、宇宙線研は大型実験施設が多く、多国での
共同設置・運営が不可欠→国際共同研究が普通
だが、不可欠ではない部局も・・・

国際交流の発展の形（理系？ボトムアップ型）



研究者同士が興味を持つ



メール、学会などで交流



研究者が研究所訪問、2国間セミナー、シンポジウム



学生・若手研究者の一定期間の相手側滞在、
成果から共著論文など発表



人文系はここ
まで？

共同研究のための自国の補助金申請



相手側機関にラボ設置（長期で研究者常駐）



国際的な共同研究資金の獲得（EU, HFSP, etc.）

国際交流の発展の形（トップダウン型）

研究機関の執行部が自国の政策、相手国の研究力（IR等で調査）により、興味を持つ

視察団派遣

交流候補機関に中堅研究者が長期滞在

具体的な国際ラボの構想

研究交流協定や契約を締結
相手側機関にラボ設置

各種補助金申請（JSPS外特etc.）
長期の常駐外国人研究者増加

国際的な共同研究資金の獲得（EU, HFSP, etc.）

海外の研究者が興味を持つためには、
英語の情報発信の強化も重要

- ・パンフレット（和文より簡単なものが多い）
- ・HP（英語のページが日本語に比べ貧弱）
- ・プレスリリース（特に日本語だけになりがち）

教員の英語力はOK

次は
事務部門の英語力

国際**URA**の支援の余地が
「まだ」ありそう

ただし、事務手続きばかりではなく、学術、法律、財務等
まで
知識を広げていく必要あり

URAの国際関連業務での個人的な悩み

1. 英語の情報発信に気軽に頼めるネイティブチェックがほしい

新聞の科学記事程度の研究用語がわかる

スポットの仕事をいつでも頼める

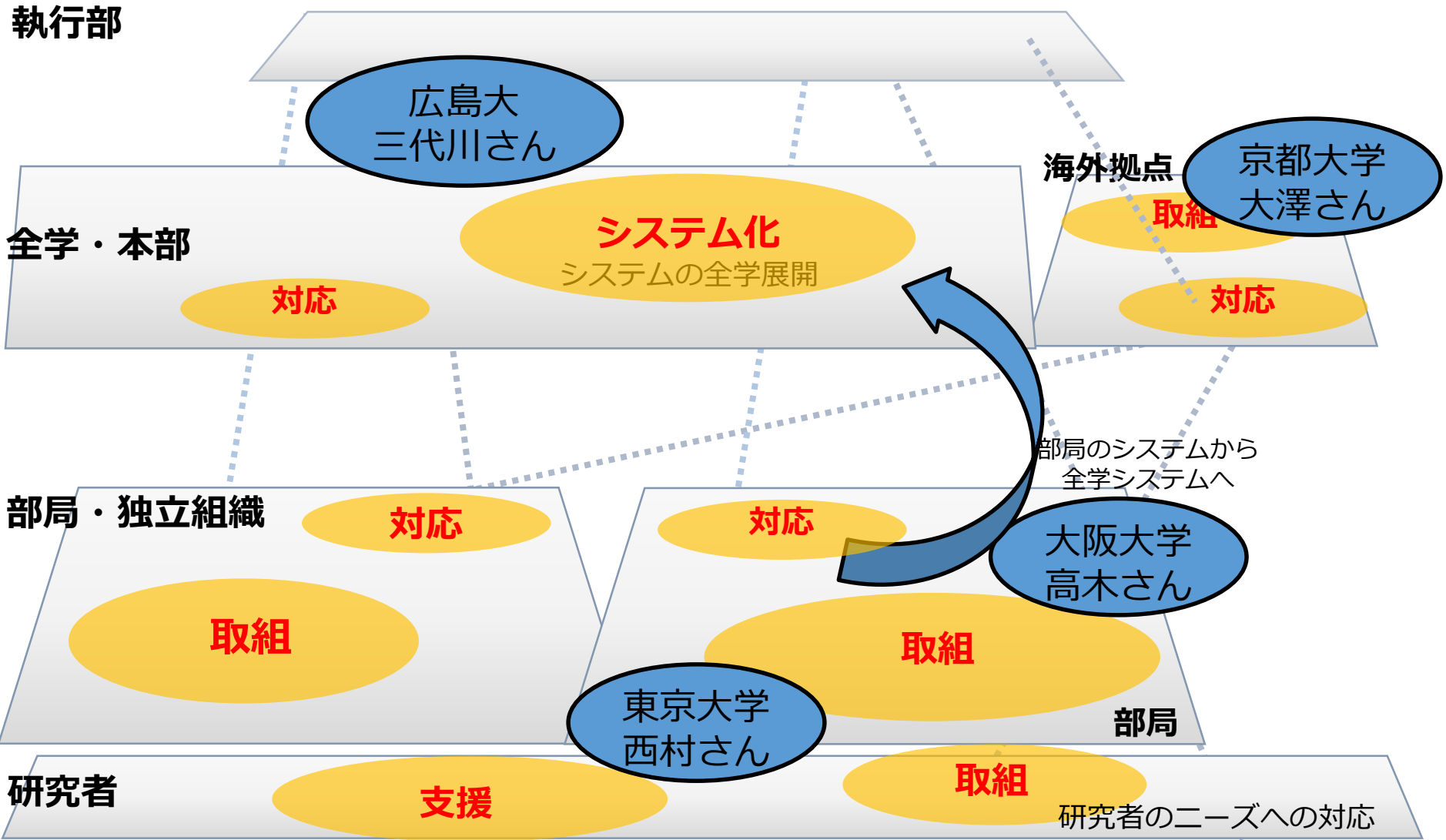
常勤の雇用ではなく、業務委託型で？

2. 海外の法律・契約関係の助言ができる人がほしい

(産学協創推進本部の対応あるが←事務のラインを通す必要)

3. 外国人研究者受け入れのノウハウの蓄積がほしい

4人のパネリストの位置と視点





大阪大学免疫学フロンティア研究センター



文部科学省

世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)事業

Science

世界最高
レベルの
研究水準

Globalization

国際的な
研究環境の
実現

Fusion

融合領域の
創出

Reform

研究組織の
改革

2007-2016年度

2017年度より

WPIプログラム拠点として活動。

WPIアカデミー拠点として活動。

拠点長：審良静男

主任研究員数：27名（うち外国人5名、19%）

所属研究者数：141名（うち外国人42名、30%）

研究支援員数：47名

年間予算（2016年度）：約40億円

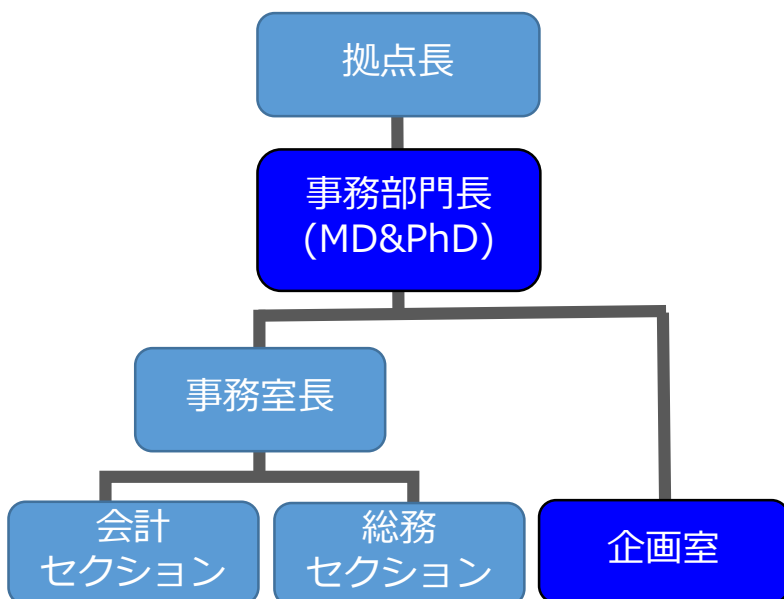
2007年-2016年の発表論文数：1265報

内ハイインパクトジャーナル（IF $\geq$ 14）：164報（13%）



米国科学アカデミー外国人会員4名が在籍

（審良静男、坂口志文、長田重一、岸本忠三）



企画室 博士号取得者 5名
事務/技術職員 5名
英語母語話者 2名

➤ WPIプログラム運営

報告書作成・予算申請・評価会対応（WG現地視察、プログラム委員会）

融合研究推進・国際頭脳循環・若手研究者支援プログラムの策定と運営

➤ 研究推進

施設利用ガイダンス及びマネジメント

研究費申請支援及びマネジメント

コンプライアンス遵守業務（研究費、研究不正の防止等）

➤ 産学連携推進

包括連携契約の管理・運営

秘密保持契約・共同研究契約・MTA管理

特許出願支援

➤ 安全衛生業務

➤ 国際イベント運営支援

（セミナー/シンポジウム/ウインタースクール）

➤ 広報・アウトリーチ活動

➤ 外国人研究者に対する生活支援

諸手続き支援、住居、子女の保育園等

すべて日英 両言語で対応

日本人研究者に必要なことは、外国人研究者にも必要。

外国人研究者のための科研費セミナー

現在は大学本部研究推進部が引き継ぎ毎年開催している。

研究法令対応（動物実験、遺伝子組換え実験、倫理審査）

法令等で求められる教育・訓練として

他部局所属者にもIFReCが英語で行う教育セミナーに参加可能としている。

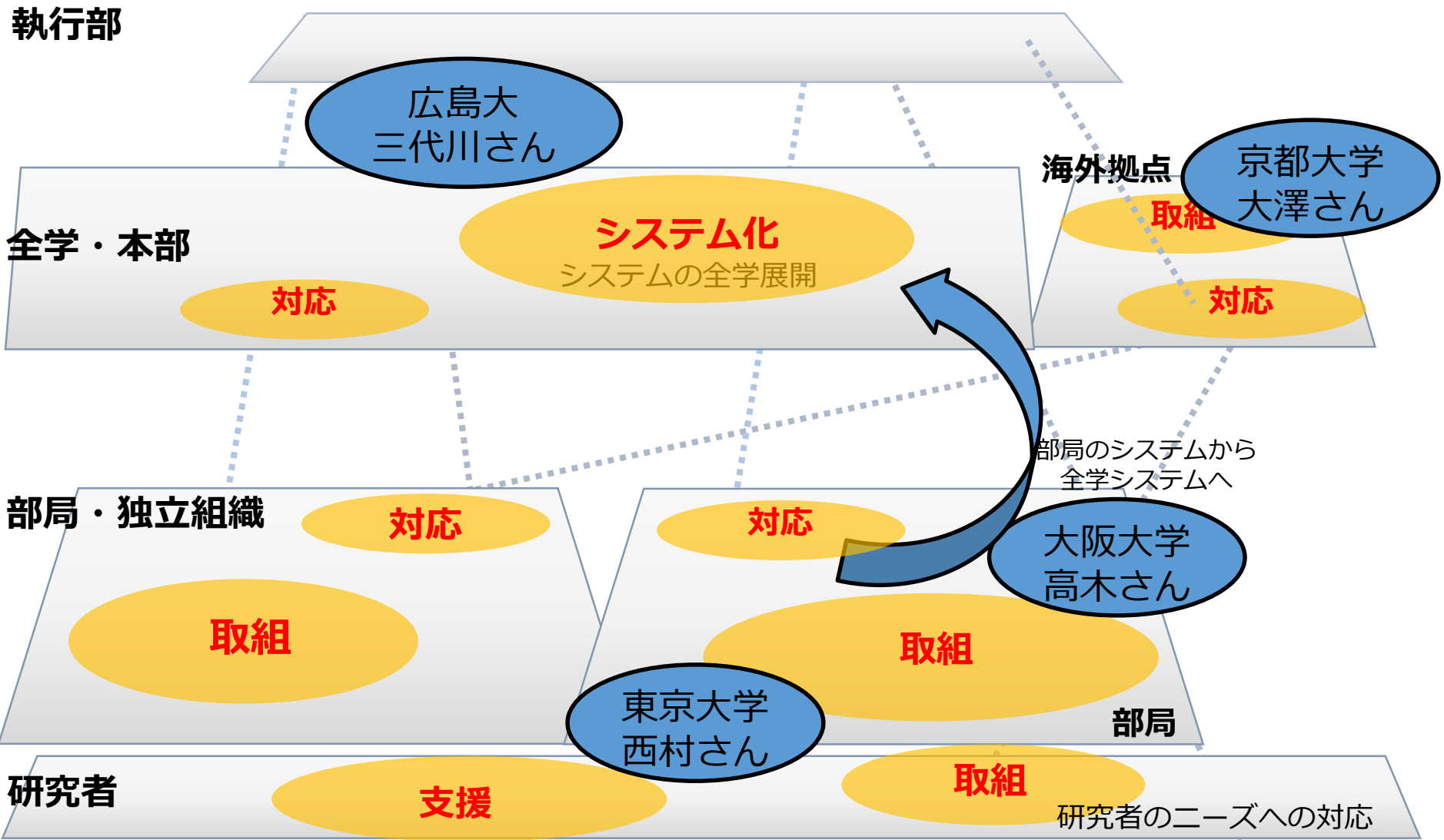
米国公的予算申請支援

大学本部の依頼により、米国の公的予算申請を行うための機関・研究者の登録を行い、管理できる状態まで整備した。現在は大学本部研究推進部へ引き継いだ。

諸文書英語化

大学が作成した日本語文書を、英語化し提供している。

4人のパネリストの位置と視点



The seal of Kyoto University is visible in the background on the left side. It is a circular emblem featuring a tree in the center, with the text "KYOTO UNIVERSITY" around the top and "JAPAN" at the bottom. The year "1897" is also present.

京都大学 学術研究支援室 (KURA)

国際グループ

URA

大澤 由実 (おおさわ よしみ)

The KURA logo is a stylized, handwritten-style representation of the word "KURA" in a light gray color, positioned at the bottom right of the page.

KURA 国際グループ

4 つのミッション

1. 国際共同研究の推進
2. 世界の研究大学との交流の促進
3. 海外研究活動の充実
4. 海外研究者受入れ体制の強化

5 つのアプローチ

1. 海外拠点の運営・活用
2. 国際型学内ファンドの運営
3. 国際シンポジウム
4. 海外ファンド獲得支援
5. 外国人研究者支援

8 名のURA(内 2 名兼任)



京都大学海外拠点

欧州拠点

- ・ ハイデルベルグ
- ・ 3名常駐



ASEAN拠点

- ・ バンコク
- ・ 4名常駐



京都大学**全学**の拠点として4つのミッション

1. 各地域における研究活動の支援
2. 各地域における教育活動の支援
3. 本学教職員・学生の国際化の推進
4. 広報・社会連携・ネットワーク形成

URAに関する業務

- ・ 各地域の科学技術情報の収集および発信
- ・ 各地域の研究プロジェクトの創発支援及び国際共同プロジェクトの運営支援
- ・ 各地域における部局の研究活動支援
- ・ 学術交流提携先・政府機関・同窓会との連携推進
- ・ 国際貢献プログラムの推進…

海外拠点とURA

欧州・ASEAN 各1名URAが交替で副所長として駐在
拠点の**立ち上げ（2014年）**から運営まで関わる

海外拠点でのURAの業務の具体例（ASEAN拠点）

- 国際共同プロジェクトの創発・運営支援（JASTIP、世界展開力）
- 現地同窓会との連携（東南アジアネットワークフォーラム）
- 現地における学術動向調査、レポート作成（FA（海外・日本）, 科学技術連絡会@在タイ日本大使館, JUNThai）
- マッチング業務（国際共同研究（日本⇔ASEAN）、産連、訪問依頼）



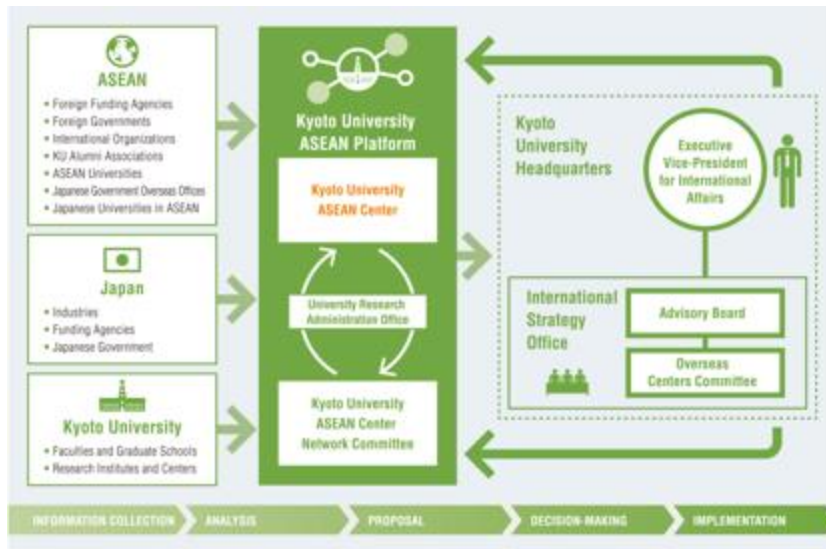
URAができる事・すべき事

提携校や現地関連機関との連携強化

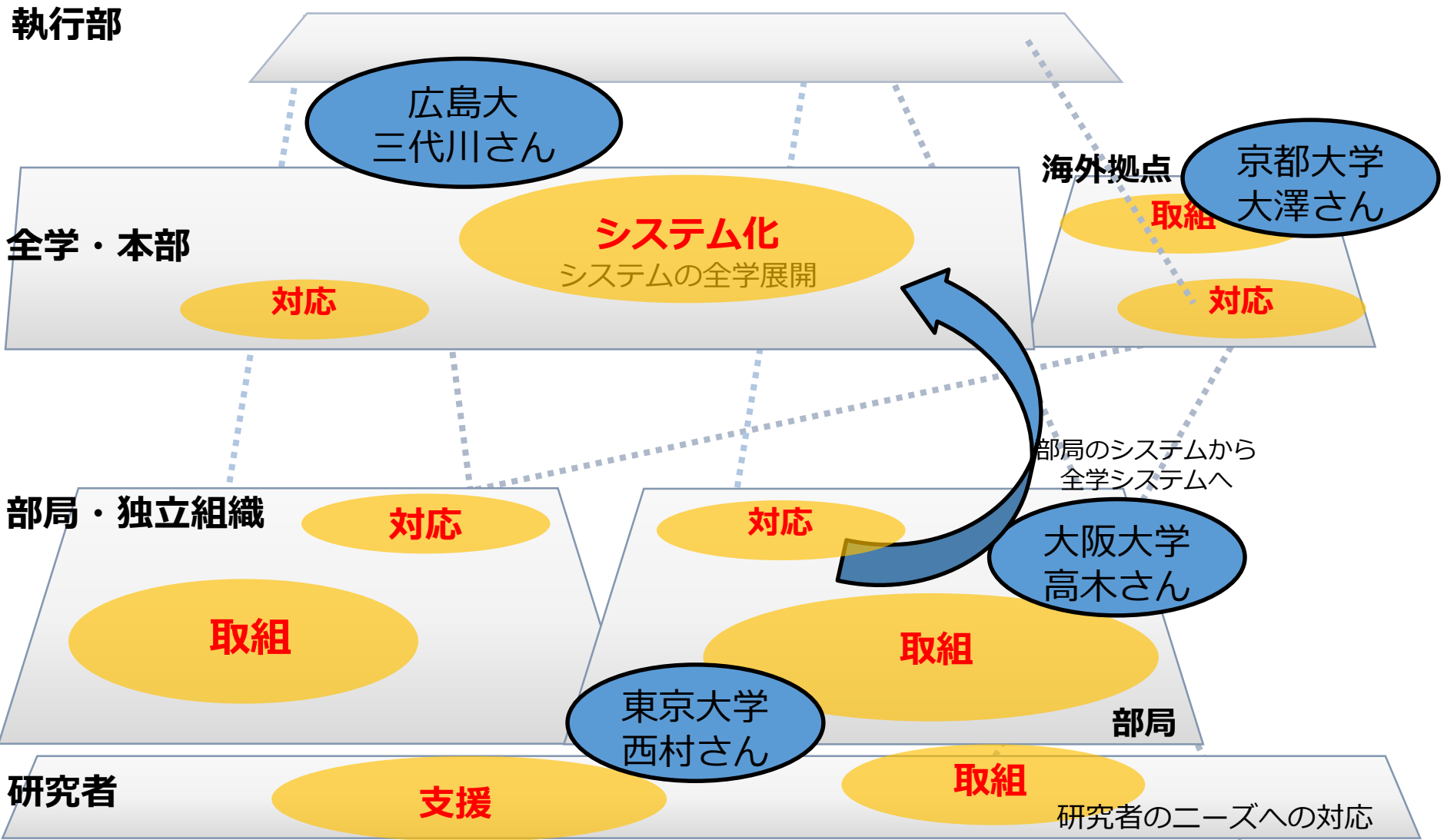
- 現場にいる強み
- 海外の研究の現場、フロントラインで業務できるURA (熱帯雨林から大臣まで)

学内連携（本部・部局）

- ASEAN拠点ネットワーク会議の設立と運営
- 学内での研究者訪問



4人のパネリストの位置と視点





HIROSHIMA UNIVERSITY

広島大学 研究企画室

シニア・リサーチ・アドミニストレーター
【国際関係主担当】

三代川 典史（みよかわ のりふみ）

国際研究活動の活性化@広島大学

ライティングセンターの機能拡充

- ・ 英文校正費の一部助成
⇒ 財政負担軽減
- ・ ライティング支援各種セミナーの開催
⇒ 国際研究成果発信支援（特に人社系）
- ・ 科研費計画調書・論文執筆リトリート
企画・開催⇒研究時間確保

国際会議開催の支援

- ・ 広島市／広島観光コンベンションビューロー／広島大学による協定締結
⇒ 目的の共有「広島の国際ブランド力強化」
- ・ 国際会議開催支援ポータル開設、
国際会議開催助成制度の運用
⇒ 国際会議の積極的誘致

研究成果の エビデンス・レピュテーション 相互の向上

- 国際共同研究の増
- 国際共著論文の増

国際科学広報の推進

- ・ 科学ニュースポータルサイトを活用した
研究成果の国際発信
- ・ 国際科学広報に関するスタッフの雇用
- ・ 研究成果発信専用Facebook（英語のみ）

国際研究ネットワークの形成

- ・ 研究拠点活動
- ・ 外国人研究者等受入（RU事業）
- ・ 科学研究費助成事業（国際共同研究加速
基金（国際共同研究強化））

【課題】 SGU事業との協奏、産官民学や学内部局・部署間連携

業務の課題（私見）

- マルチすぎるミッション
- 言語・文化の壁（内部的、外部的）
- 共同研究推進における、URAにとっての海外カウンターパートが不明確

URAに対する期待（私見）

- 大学の国際化に関わる多種多様なミッションへの参画
- 国際関連外部資金への申請書作成支援
- 国際共同研究推進の仕掛け

将来の国際展開担当URA像（私見）

- グローバル・コミュニケーション力の高度化
（URAの多国籍化も？）
- 連携（学内、学外、海外）の深化
- 専門化・分業化？

本日の論点

1. 大学における『研究の国際化』とは？
2. 『研究の国際化』の連携・学内定着についての工夫は？
3. （例えば10年後）国際系URAの未来は？